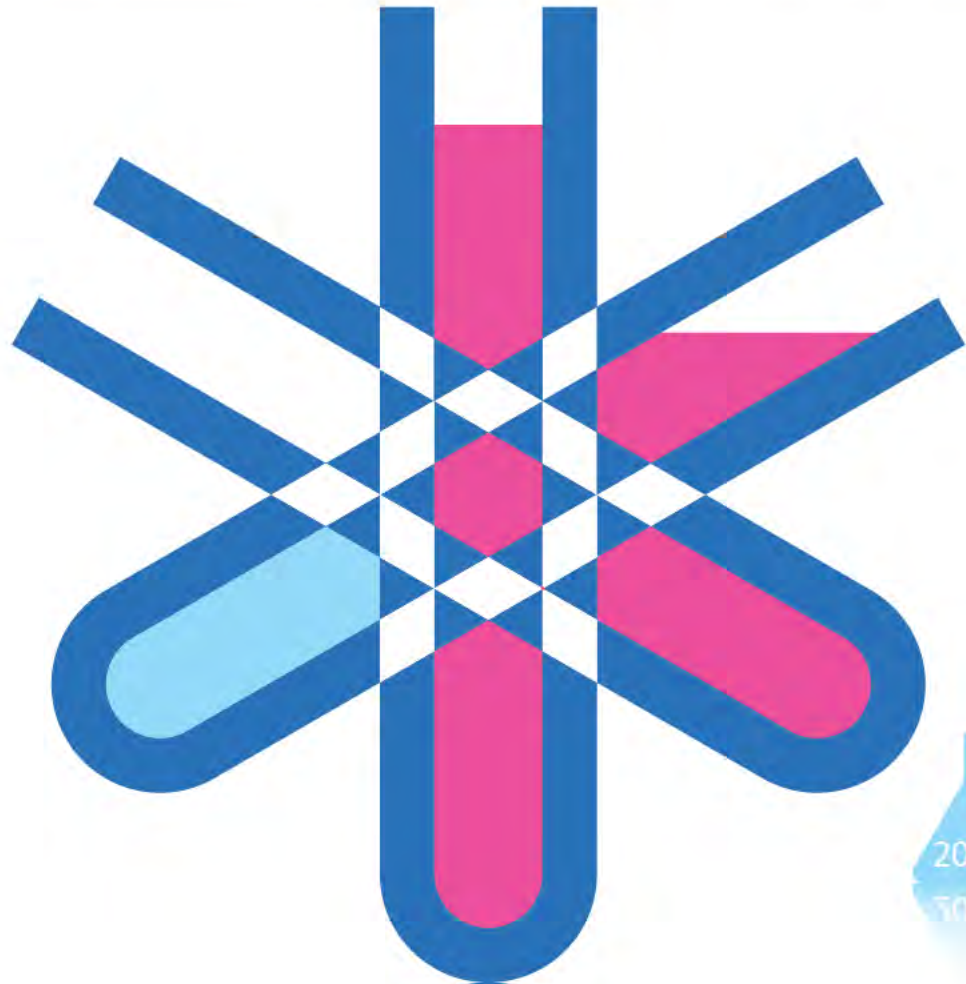


検査情報月報



2017
5011
4月

横浜市衛生研究所

平成29年4月号 目次

【トピックス】

平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)	1
食品中のアフラトキシン検査	4

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 3月	5
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	9
---------------------	---

平成28年度 医動物・種類同定検査のまとめ(10～3月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成28年10月から平成29年3月の種類同定検査件数は、11件でした。内訳は昆虫類5件(ハエ目3件、カメムシ目1件、コウチュウ目1件)、その他の節足動物6件(ダニ目1件、クモ目5件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
新築一戸建てのリビングに翅のある小さな虫が多数みられた。		ユスリカ類 数種 (ハエ目)	ユスリカ類は種類数が多く、国内に1200種以上が生息する。生息域は広く、多くの種が池、湖、川などから発生する。成虫が灯火に導かれ家屋内に侵入し、不快害虫となることがある。
	成虫、黒色、2mm		
		クロバネキノコバエ科 の一種 (ハエ目)	クロバネキノコバエ科は国内に100種ほどが生息している。幼虫は腐植物質から発生する。成虫の生息場所は主に屋外であるが、屋内へ侵入し、不快害虫となることがある。
	成虫、黒色、3mm		
家の網戸に虫がいた。		ハナバエ科の一種 (ハエ目)	ハナバエ科の幼虫は、植物の根や茎の内部を食害するもの、葉肉内に潜行するものが多い。成虫は、ほとんどの種が衛生害虫として問題とならない。
	成虫、灰褐色、7mm		
和室のテーブルの上に多数の虫が死んでいた。		アブラムシ類の一種 (カメムシ目)	アブラムシ類はいろいろな植物に好んで寄生し、気象条件や栄養条件に恵まれると大発生することがある。初夏には有翅形の雌が現れ、寄生植物へ移動する種が多くみられる。また9月から11月には寄生植物から移動し、越冬せずに死滅する。
	成虫、茶褐色、0.8mm		

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
段ボールの中に幼虫が多数みられた。	 <p data-bbox="443 546 692 577">幼虫、乳白色、8mm</p>	ゾウムシ科の幼虫 (コウチュウ目)	ゾウムシ科の成虫は葉上、枯れ木、倒木、落ち葉など生息場所が多岐にわたる。成虫、幼虫ともに植物質を食する。ゾウムシ科には、老熟幼虫が寄生植物から脱出し、蛹化のために土中へ移動する種がいる。
着用している衣服に虫がついていた。	 <p data-bbox="443 891 692 922">成虫、乳白色、0.5mm</p>	ダニ目の一種 (ダニ目)	形態は種により多様であるが、いずれも小型で、体長1mm以下のものが多い。生活環境や生態も非常に多様である。人とのかかわりが深いものとしては皮膚炎や気管支炎等のアレルギーとなるチリダニ類、食品害虫となるコナダニ類や農業害虫とされるハダニ類等が挙げられる。
自宅水道メーター内でクモを発見した。	 <p data-bbox="443 1272 692 1303">成虫、黒褐色、7mm</p>	クモ目の一種 (クモ目)	体色及び腹部に特有の斑紋がみられないことから、ゴケグモ類ではない。検体は破損が激しく、種の同定は不可能であった。
マンションの通路でクモを発見した。	 <p data-bbox="443 1608 692 1639">成虫、黒褐色、4mm</p>	クモ目の一種 (クモ目)	体長、体色及び腹部に特有の斑紋がみられないことから、ゴケグモ類ではない。検体は乾燥が激しく、種の同定は不可能であった。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
施設内のグレーチング裏側、カラーコーン裏側でクモ6匹及び卵のう6個を発見した。	 <p>腹面</p>	<p>セアカゴケグモ2個体 (クモ目)</p>  <p>背面</p>	<p>体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。</p>
雌成虫、黒色、腹面と背面に赤い斑紋、8mmと5mm	 <p>腹面</p>	<p>ハイイロゴケグモ2個体及び卵のう6個 (クモ目)</p>  <p>背面</p>	<p>体は褐色または灰色で個体差がある。腹部背面の正中線上に4個の白点がある。腹面に赤い斑紋がみられる。</p>
卵のう、乳白色、金平糖状、約8mm			<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>セアカゴケグモやハイイロゴケグモは、外来種で、メスのみ毒をもちます。</p> <p>巣はベンチの下や側溝の蓋の裏側、ガードレールの支柱付近など地面に近い直射日光が当たらない場所に造られます。咬まれると激しい痛みや腫れを生じることがあります。重症化することは少ないですが、万一激しい痛み、発汗、発熱などが現れた場合には、医療機関で診察を受けてください。</p>  </div>
成虫、黒褐色、7mm		<p>クモ目の一種2個体 (クモ目)</p>	<p>※腹部にゴケグモ類特有の赤い斑紋はみられなかった。</p>
成虫、黒褐色、4mm			

食品中のアフラトキシン検査

当所では、食品中のアフラトキシン検査を行っています。今回は、平成28年11月、12月及び平成29年2月に食品専門監視班が収去した食品の検査結果を報告します。

11月に市内を流通している食品2件(牛乳、特別牛乳各1検体)についてアフラトキシンM1の検査を行いました。

また、12月に6件(アーモンド、カシューナッツ各1検体、アーモンドパウダー、乾燥いちじく各2検体)、2月に5件(クルミ、ターメリック、落花生各1検体、ブラックペッパー2検体)について総アフラトキシン(アフラトキシンB1、B2、G1、G2)の検査を行いました。

検査の結果、表1、2に示すとおり全て不検出でした。

表1 アフラトキシンM1の検査結果

単位: $\mu\text{g}/\text{kg}$

食品の種類	検体数	検出数	結果	規制値
牛乳	1	0	不検出	0.5
特別牛乳	1	0	不検出	
計	2	0	—	—

(検出限界: $0.05 \mu\text{g}/\text{kg}$)

表2 総アフラトキシンの検査結果

単位: $\mu\text{g}/\text{kg}$

食品の種類	検体数	検出数	結果	規制値
アーモンド	1	0	不検出	10
アーモンドパウダー	2	0	不検出	
カシューナッツ	1	0	不検出	
乾燥いちじく	2	0	不検出	
クルミ	1	0	不検出	
ターメリック	1	0	不検出	
ブラックペッパー	2	0	不検出	
落花生	1	0	不検出	
計	11	0	—	

(検出限界: $1.0 \mu\text{g}/\text{kg}$)

《アフラトキシンについて》

平成28年4月号「食品中の総アフラトキシン検査」をご参照ください。

(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/2016/pdf/160403.pdf>)

《アフラトキシンM1について》

アフラトキシンM1は平成28年1月23日から乳に $0.5 \mu\text{g}/\text{kg}$ の規制値が設けられました。

アフラトキシンM1は人や動物が摂取したアフラトキシンB1が体内で変換された代謝物です。汚染された飼料を摂取した牛の乳(Milk)中に検出されたことからアフラトキシンM1と命名されました。そのため、アフラトキシンM1は乳にのみ規制値が設定されています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 3月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの定点あたり報告数が流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

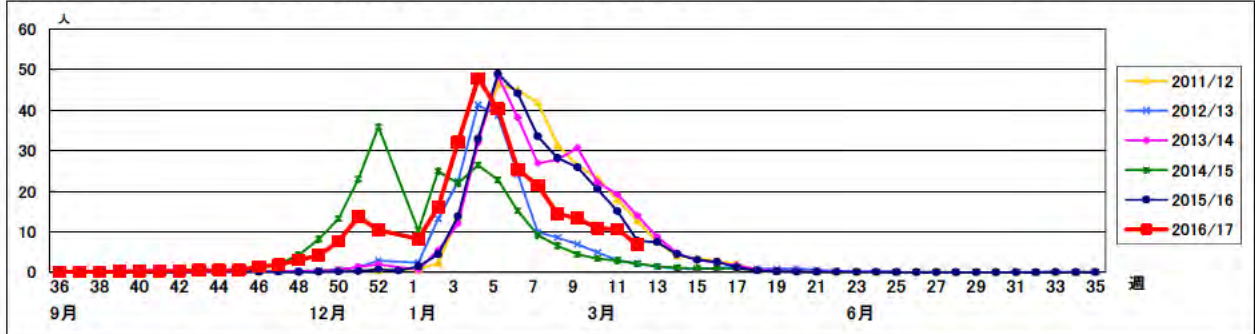
細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	8件
E型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
レジオネラ症	3件	梅毒	19件
アメーバ赤痢	6件	播種性クリプトコックス症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	風しん	2件
急性脳炎	6件	麻しん	2件

- 1 細菌性赤痢:1件の報告があり、国内での経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:タイでの経口感染と推定されるO111の報告が1件、エジプトでの経口感染と推定されるO不明の報告が1件ありました。
- 3 E型肝炎:1件の報告がありましたが、感染経路等不明でした。
- 4 レジオネラ症:肺炎型の報告が2件、ポンティアック熱型の報告が1件ありました。
- 5 アメーバ赤痢:6件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路は、国内での性的接触が2件(異性間1件、同性間1件)、インドまたはバングラデシュでの感染経路等不明が1件、感染地域および感染経路等不明が3件でした。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 急性脳炎:6件の小児の報告があり、迅速キットにてインフルエンザAが2件、インフルエンザBが1件、病原体不明が3件でした。
- 8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:2件が報告され、うち1件がG群で、1件はB群でした。
- 9 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が2件(同性間性的接触1件、感染経路不明1件)、無症状病原体保有者の報告が5件(同性間性的接触が3件、異性間性的接触が2件)、その他の報告が1件(同性間性的接触)でした。男性7件、女性1件でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症:13件の報告があり、うち1件の小児についてはワクチン接種歴が確認されました。12件(40~90歳代)についてはワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 11 梅毒:19件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件)がありました。国内での感染が16件、東南アジア(詳細不明)が1件、感染地域不明が2件で、男性15件、女性4件でした。感染経路は、異性間性的接触が12件、同性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が4件、感染経路不明が2件でした。
- 12 播種性クリプトコックス症:3件の報告があり、いずれも免疫不全によるものと推定されています。
- 13 風しん:2件の報告がありました。1件は60歳代でインドでの感染と推定され、ワクチン接種歴は確認できませんでした。もう1件は10歳代の臨床診断例で国内での感染と推定され、ワクチン接種歴(2回)が確認されています。
- 14 麻しん:2件の報告がありました。1件は40歳代で、タイでの感染と推定されています。もう1件は20歳代の修飾麻しんで、詳細については調査中です。いずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。

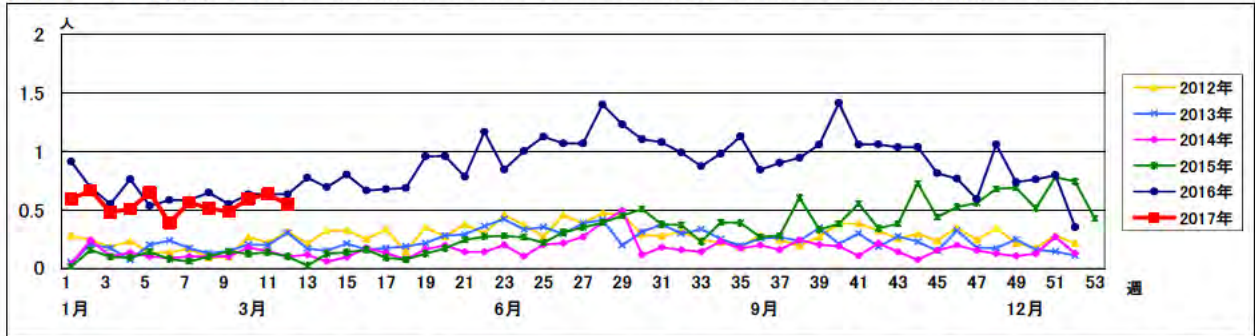
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 7週	2月13日～2月19日
第 8週	2月20日～2月26日
第 9週	2月27日～3月 5日
第10週	3月 6日～3月12日
第11週	3月13日～3月19日
第12週	3月20日～3月26日

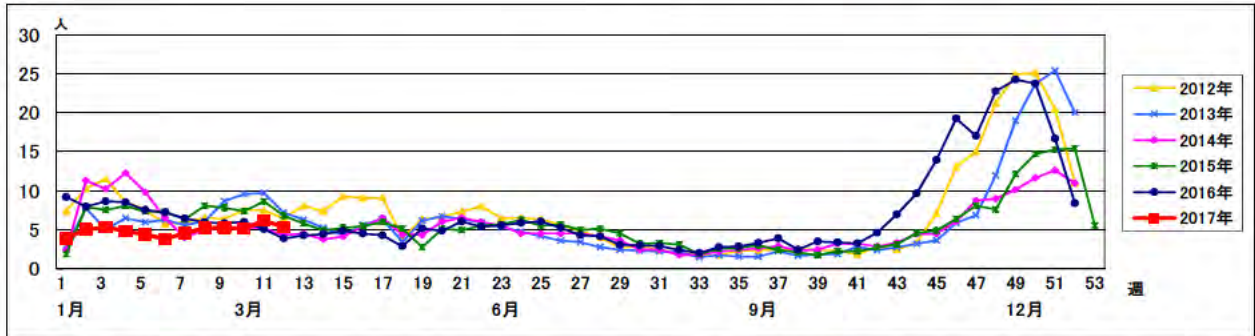
- 1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.39にて流行入り(目安:1.00)、第51週で13.67にて注意報発令(基準値:10.00)、第3週で32.07にて警報発令(基準値:30.00)となりました。第4週の47.83をピークとして漸減し、第12週で6.76にて警報解除基準値(10.00)を下回りました。



- 2 流行性耳下腺炎: 第12週で定点あたり0.54と、昨年と同様に報告が多い状態が続いています。



- 3 感染性胃腸炎: 第48週で定点あたり22.73となり、例年に比べて早く警報発令されました。第49週の24.24をピークとして漸減し、第52週には警報解除基準値(12.00)を下回り、第12週は5.33となっています。



- 4 性感染症: 2月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が3件でした。
- 5 基幹定点週報: 細菌性髄膜炎は第7週0.00、第8週0.00、第9週0.25、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00と報告されています。マイコプラズマ肺炎は第7週0.75、第8週0.75、第9週0.50、第10週0.33、第11週0.50、第12週0.67と報告されています。インフルエンザによる入院は第7週2.75、第8週2.50、第9週2.75、第10週0.25、第11週1.25、第12週2.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第7週0.75、第8週1.75、第9週1.25、第10週1.67、第11週0.75、第12週0.00と報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報: 2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が6件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点18件、眼科定点3件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは2件でした。

4月7日現在、ウイルス分離35株と各種ウイルス遺伝子21件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(3月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎
アデノ 2型	1						
アデノ 型未同定	3		1		1		
インフルエンザ AH1pdm09型			2				
インフルエンザ AH3型			14 1				
インフルエンザ B型ビクトリア系統	1		13				
インフルエンザ B型山形系統			3				1
パラインフルエンザ 2型	2						
ヒトメタニューモ	3	2					
ライノ	2	1					
RS				1			
ロタ						3	
ノロ						1	
合計	2 10	0 3	32 2	0 1	0 1	0 4	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月の「感染性胃腸炎」は基幹定点から4件、その他の医療機関から2件でした。基幹定点からは腸管出血性大腸菌(O111:H-,VT1)、腸管凝集性大腸菌(O86a:H-)、*Salmonella* Rissenが検出され、その他の医療機関からは*Shigella sonnei*と腸管出血性大腸菌(OUT,VT1)が検出されました。

「その他の感染症」は小児科定点から4件、基幹定点から24件、定点以外の医療機関から21件でした。定点以外の医療機関のバンコマイシン耐性腸球菌は*Enterococcus faecium vanA*、その他では*Helicobacter cinaedi* 1件と*Cryptococcus neoformans* 1件が検出されています。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(3月)

感染性胃腸炎								
菌種名	検査年月		3月			2017年1月～3月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		0	4	2	0	18	8
赤痢菌					1		1	
腸管出血性大腸菌			1	1		2	4	
腸管凝集性大腸菌			1			4		
サルモネラ属菌			1			3	2	
不検出			0	1	0	0	9	
その他の感染症								
菌種名	検査年月		3月			2017年1月～3月		
	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	件数		4	24	21	9	63	76
A群溶血性レンサ球菌	T1		2			2		
	T4		1			3		
	T6					1		
	T B3264		1			1		
	型別不能					1		
B群溶血性レンサ球菌							3	
G群溶血性レンサ球菌							2	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					2		2	
バンコマイシン耐性腸球菌					1		1	
レジオネラ属菌					2		3	
インフルエンザ菌						1		
肺炎球菌							3	
結核菌				20	9		20	
百日咳菌							2	
その他				2	7		39	
不検出			0	2	0	0	2	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年3月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年3月の総アクセス数は、97,380件でした。前月に比べ約19%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}72.7%、保健情報10.7%、検査情報月報3.8%、食品衛生2.6%、生活環境衛生2.4%、薬事0.6%でした。なお、平成28年度の年間総アクセス件数は、1,252,129件でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

3月のアクセス順位(表1)を見ると、インフルエンザ流行情報を初めとして、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「横浜市感染症情報センタートップページ」、3位は「インフルエンザ流行情報(2016/2017)」でした。感染症以外の項目では、「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数が、継続的に上位を占めています。

表1 平成29年3月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	7,327
2	横浜市感染症情報センタートップページ	5,439
3	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	3,912
4	衛生研究所トップページ	3,168
5	横浜市インフルエンザ流行情報15号	3,094
6	横浜市インフルエンザ流行情報14号	2,872
7	横浜市インフルエンザ流行情報16号	2,798
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,797
9	横浜市インフルエンザ流行情報17号	2,514
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,300

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「インフルエンザ流行情報(2016/2017)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2016.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年3月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成29年3月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
市内自治会からのリンクの依頼について	1	感染症・疫学情報課
集団感染対策に関するHP掲載等の意見について	1	感染症・疫学情報課
民間企業からの便検体取り扱いについて	1	微生物検査研究課

2 追加・更新記事

平成29年3月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 平成29年3月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
3月 1日	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果(平成28年)	更新
3月 3日	横浜市インフルエンザ流行情報14号	掲載
3月 7日	麻しん疑い例のウイルス遺伝子検査結果(2010～2016年)	更新
3月 9日	横浜市インフルエンザ流行情報15号	掲載
3月16日	横浜市インフルエンザ流行情報16号	掲載
3月23日	横浜市インフルエンザ流行情報17号	掲載
3月30日	旋毛虫感染症(トリヒナ症)について	更新
3月30日	横浜市インフルエンザ流行情報18号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】